

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通 あやめ・あさがお)

事業所番号	2795000625		
法人名	社会福祉法人 柏樹会		
事業所名	フォレストガーデン くさか		
所在地	大阪府東大阪市日下町3丁目7-14		
自己評価作成日	令和2年8月20日	評価結果市町村受理日	令和2年11月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://care-net.biz/27/fg-kusaka/">http://care-net.biz/27/fg-kusaka/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和2年9月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いままで毎月定期的に認知症カフェと運営推進会議を開催し、みなさまの意見を頂いて、遠足・食事ツアーのレクリエーションや敬老祭・夏祭り施設行事など、職員と地域の方達一緒に取り組んでましたが、コロナ感染拡大の影響で、現在運営推進会議と認知症カフェ休止状態です。このような状況で利用者様に感染しないようにマスク着用・手洗い・うがい・消毒を徹底し、サービス向上を出来る為に、各ユニットにカラオケ配置し、体操・折り紙・塗り絵など提供して、退屈のない毎日に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、生駒山麓の閑静な住宅街の中に位置し、近隣には古民家が何軒か点在する環境の下、地域の祭りや各種催し(大道芸・マジック・七草粥)が開催され、利用者も参加して地域の人々と交流する場となっている。事業所は3階建てで、1階に小規模多機能施設・デイサービスセンター・ケアプランセンターが開設され、2階・3階にグループホーム2ユニットがある。地域の困りごとの相談にも気軽に対応し、地域に信頼されて開設以来6年経ち、すっかり地域の1員として安心した関係を構築している。敷地は広く、畑を耕して季節の野菜や花を植えて眺めて楽しみ、閉塞感を無くして良い気分転換の場所として役立てている。法人は今年のコロナ禍の中、利用者楽しんでもらいたいと各ユニットにカラオケBOXを購入して、1階の小規模多機能センターとの交流を行い、退屈しのぎや気分転換の一環として活用し喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理職と職員共に法人の理念「心あるサービス・おもてなしの心を大切に、明るい笑顔・明るい挨拶・清潔な身なりで利用者・家族に接します」常に心掛けし、サービスを提供しています。	事業所の独自理念5項目を職員と共に作り、玄関に掲示している。今後は職員や家族の目につきやすい各フロアのリビングにも掲示する予定である。職員研修や会議で理念を確認・周知して、サービスの向上につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	いままで運営推進会議と柏樹カフェを通して地域の方々や近隣施設と関係作りを行い、地域との繋がりがもてるよう活動を行っていましたが、今年コロナの関係で開催する事が出来なくなり、FAX・電話にて情報交換を行っている。	事業所の祭り(敬老祭)には駐車場を開放して屋台を出店(焼きそば・フランクフルト)し、地域の人たちに河内音頭を踊ってもらい、楽しい地域交流の機会となっている。中学校の職業体験、大学の教職員実習生の受け入れ、傾聴ボランティアの受け入れるなど、多岐に亘って地域交流を実施してきたが、コロナ禍で今期のイベントは中止した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いままで毎月1回実施している認知症カフェを通して、地域の方への情報発信を行っていましたが、コロナの影響でチラシ・インターネットに通じて地域の方に情報提供している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月開催の運営推進会議を通して、近隣施設や地域の方々や意見交換を行い、日々の取り組みの振り返りやアイデアを得ることでサービス向上に活かしている、コロナ感染拡大予防の為に会議の開催中止していますが、FAX・電話にて事業所の状況を報告し、運営に活かしている。	事業所の1階の小規模多機能施設と合同で会議を開催し、利用者家族・地域包括支援センター職員(知見者)・民生委員が出席している。会議では、事業所の現状報告や活動内容を報告して来たが、コロナ禍の3月から中止している。	今後は、会議の議事録を家族に送付し、外部評価も開示して事業所の現状を知らせ、家族の理解を深めてより良い関係を構築することを望む。コロナ禍の終息がみられない内は、書類開催等での方法で開催頻度の維持を図られることを望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当との連携を図り、協力体制の構築に日々努めている、又地域包括の緊急ケースの相談に協力体制で取り組んでいる。	現在生活保護受給の利用者が4名入居しており、市の介護保険料課・給付管理課・福祉課を訪問して事業所の現状を報告し、ケースワーカーの来訪もある。地域の困りごとの相談に対してアドバイスをもらって、協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に向けたマニュアル整備を行い、身体拘束廃止委員会で他職種との共同で議論の場を設け、できるだけ拘束にあたらない環境作りができるよう取り組んでいる、必要のある場合は家族様の同意を得て行っている。	以前はミトン装着の利用者が1名いたが現在は無く、身体拘束委員会を立ち上げて現状の事例検討を行っている。研修は年2回以上行い、指針の作成を検討中である。ユニット間や、回廊式に設計されたユニットの中を利用者は自由に行き来して、閉塞感を無くすよう見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通して高齢者虐待について学び、当施設での虐待が発生しないよう職員の理解と意識向上に取り組んでいる、市役所の相談・報告行う、サービス向上する為にフロア内カメラ設置する予定。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び機会えを提供しましたが、実際の場面少なく、今年8月小規模多機能の利用者様成年後見人の申し立てあった事で全員に情報共有し、勉強になりました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	担当者から詳細に説明を行い、ご理解いただいた上で契約の締結を行えるよう実施している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見いただいた際は、施設内で迅速に報告と回覧作成を行い反映させるよう行動、会議での検討と発表に繋げている	利用者や家族からの意見や要望に、迅速に対応できる体制を整え、職員は連絡帳などで共有して対応している。毎月、写真入りのユニット便りや利用者個別の活動報告を家族に送付して喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	サービス向上の一環としてレクリエーション職員話し合えし、意見交換の機会を設けている、実行している。	年に2回、自己評価票で職員にチェックしてもらい、それを基に法人代表や管理者との個別面談を行い、提案を受けたりシフトの相談にのっている。職員は運営会議やユニット会議のなかで意見交換を行い、運営に反映されている。レクリエーション・環境担当や身体拘束委員を設け、職員は運営に関わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の労働環境や日々の業務実績については管理者とユニットリーダーが密に連絡を行い、改善と向上に向けて相談を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者との連携を図りながら法人内研修と勤務年数一定の方に法定研修を推薦し、職員を育成する取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いままで認知症サポーター講座を開催し、事例発表を通じた勉強会を実施していましたが、コロナ感染予防の影響で、FAX・電話、ネットワークを通じて、サービス向上の取り組みをしている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時にカンファレンスや聞き取りを実施し、利用者様のニーズを把握することと安心を確保するための関係づくりに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時にカンファレンスや聞き取りを実施し、利用者様のニーズを把握することに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時にカンファレンスや聞き取りを実施し、利用者様のニーズを把握することに努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様とのコミュニケーションや信頼関係を大切にし、共に過ごし支えあう関係作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年面会出来ない事ではありますが、オンラインの面会を提供と、月1回のお手紙で様子を報告させていただき共有しながら家族様と一緒に支えあうことができるように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が大切にしてきた馴染みの人や場所の把握し、電話とハガキなどの手段で関係維持に努めている。	1階の小規模多機能施設やデイサービスセンターから利用者の友人の訪問があり、年末には合同カラオケ・忘年会が行われている。今まで行きつけの理・美容院や洋装店に出かける時は、法人が車で送迎している。法事や墓参りには、家族同行で外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置調整、職員仲間に入りゲーム、折り紙など参加して頂き、利用者同士でも話しのチャンス増えるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、必要な際には情報提供を行えるよう関係の維持に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様と家族様の意向を確認し、利用者本位を忘れず、ご本人の合ったサービスを提供するように努めている。	契約時に以前利用者のケアプランを担当したケアマネジャーから情報を提供してもらい、フェイスシートやアセスメントシートにこれまでの生活歴や趣味、本人・家族の希望など特記事項を記録し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用開始時に利用者様本人や家族様への聞き取りをし、情報収集を行い、本人これまでの生活歴を把握するように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員・ケアマネ・医療職との連携、情報共有をこまめに行い、心身状態の維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	短期目標6ヶ月ケアプランの計画を通して、現状に即したサービス提供している、又状況の変化に応じてプランの随時見直しなど行っている。	契約時に介護計画書の暫定プランを作成して3か月後に見直しを行い、その後は短期6か月、長期1年を目安に介護計画の見直しを行っている。利用者の体調の変化や希望により、家族にサービス担当者会議への出席を促して現状を報告し、ユニット会議を経て現状に即したプランの変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活録やケアプラン実施記録を残し、情報共有する体制を作ることで介護計画の実践・見直しに取り組んでいる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ひとりひとりのニーズに合ったサービスの提供ができるよう、他部署とも連携を図りながら多様な提案ができるよう努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の情報を提供し、利用者様が地域の中で活躍や交流がもてる体制を作っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人随時安心して診て頂ける為に、施設の歯科・内科往診を受け、特別の状況時は家族にもしくは職員の付き添いで受診して頂けるように支援している	利用者・家族の意向に沿ってかかりつけ医を決めており、心疾患がある利用者1名は従前の医師を受診している。他の人は協力医療機関の内科と歯科(全員)の往診を毎週受けている。家族または職員が同行して、眼科・精神科を受診している人もおり、情報提供書を持参して利用者の状況を受診先に知らせている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今年の4月から週1回訪問看護サービスを導入し、看護師とこまめに連携を図り、必要な医療を受けられる体制づくりを行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	地域の病院と相談できるような関係作りし、入院時も医療機関と連携を図り、情報提供や退院時の情報確認を確実に行うよう、施設内で体制を立て実施している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の状態に応じて往診医と情報共有し、ご本人と家族様の意向確認をし、看多機と連携し終末期に向けての支援に取り組んでいる	入居時に、緊急時の対応について利用者・家族に説明し、同意書を得ており、利用者の重度化時も再度説明し同意を得ている。従来は事業所での看取りを行っていなかったが、本年4月に医療連携体制を整え、新型コロナウイルス感染の恐れで入院を回避した利用者を、主に看護師が対応して、9月に初めて看取った。	今後は、重度化・終末期に関わる指針やマニュアル・手順書を整備し、職員の研修も含め更なる体制の確立を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアル整備を行い、対応できる体制を整えているが、職員の入退職に付き定期的に行う必要がある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内の災害訓練や消防署の指導を受け訓練を行っているが、近所の施設と地域の住民の協力体制を築いている	消防署の立ち合いの下で年2回(うち1回は夜間想定)消防避難訓練を行っており、地域の人も訓練に参加している。隣接する老人ホームと夜間相互扶助提携をしており、すぐ駆け付けられる近在の職員も数人いる。懐中電灯・毛布などを用意しているが、生活消耗品の備蓄はされていない。	今後は、様々な災害に対応する防災マニュアルを作成し、地震や風水害などを想定した自主訓練・ミニ訓練も実施し、また水・食料などの生活消耗品は3日以上備蓄することを望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者様のプライトを配慮し、言葉遣いを気をつけている、又サービス中で言葉遣いなど気になる事など積極的に回覧と声掛けなど対応している	利用契約時に、利用者の人格尊重とプライバシー確保について説明し、職員は個人情報保護の誓約書を提出し、接遇マナー研修で知識・スキルを習得している。入浴は同性介助を基本とし、排泄失敗時の声かけや対応に配慮し、利用者は「さん」付けで呼ぶ、などに留意している。不適切な対応があれば文章化して回覧・共有し改善している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様本人の意向をしっかりと理解できるようにユニット内で働きかけを行い、職員にも心がけの指導を行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の暮らしを第一とすることを職員に指導し、それを実践するための業務マニュアルの作成や意識向上に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様本人や家族様の希望を聞き取り、実践できるよう支援を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の出来る事を見極め、おしぼり作り、テーブルの消毒、食事の盛り付け、食器洗いの参加など積極的に提案している	業者からの料理を事業所で温めて盛り付け、ご飯を炊いて提供している。季節毎の食事レクレーション(お好み焼き・焼きそば・流しそうめん・鍋料理など)や月1回以上の手作りおやつ(たこ焼き・ホットケーキ・フレンチトーストなど)を楽しんでいる。遠足先や買い物ツアーのついでに外食し、フードコートへ食事ツアーに出かけることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は数値で記録し、栄養状態の把握し、随時往診医などに情報提供するように支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの管理、ひとりひとりの適切な支援を行い、歯科往診時の指導も取り入れケアしている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立支援を前提として、トイレ誘導、リハビリパンツ着用、オムツ使用などご本人に合った排泄手段を提供している	終日おむつ使用の利用者はおらず、約1/3が布パンツ使用で、適時に声かけし、2人介助も行って、全員がトイレで排泄するよう支援している。夜は2時間毎に見回り、個々に応じてトイレ誘導やパッド交換などを行い、1名はポータブルトイレを使用している。退院後に、常時おむつから日中はリハビリパンツ使用に改善した人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況も管理し、医療職と連携しながら食事摂取の工夫や服薬を通して滞便予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を提供していますが、体調不良、気分が向いてない時などは、振り替えて頂く、陰部洗浄などで対応している、ご本人の希望があれば入浴前の毛染めなども対応している	月・火・水・金曜日の内、週2回午前に入浴してもらっている。同性介助を基本とし、3方向介助ができる浴槽なので、1名の利用者には職員2人で介助している。入浴嫌いな1名には、身体の部分的な洗浄と清拭を行って、清潔を保っている。希望に沿って入浴前の毛染めも行い、好みのシャンプーや誕生日プレゼントの柄入りタオルを使ってもらい、ゆず湯も楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりの生活ペースを尊重し、安心して休息できる生活リズムの維持に努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容を介護職が理解できるよう情報を管理し、医療職と連携しながら支援できる体制を構築している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりの趣味や嗜好を知り、日々の生活に張り合いや喜びを感じることができるよう、出来る範囲での家事手伝いや様々なアクティビティの提供に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	いままで希望に沿って外出できるよう、職員の同行や家族様への協力を求め実施すると同時に、外出行事も計画すること出来ました。今年にはコロナの影響で行事の計画と外出する事が出来なくなっている	入浴がなく職員が揃っている水曜日を中心に、週1回は敷地内の散策で外出し、庭で野菜作りをして外気に触れるよう支援している。春・秋の遠足(鶴見緑地・枚方公園)・桜見・食事ツアー・買い物ツアーで遠出し、ツアーには家族も同行している。コロナ禍の中でも、施設内を回遊してもらって閉塞感の払拭に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の認知度を配慮し、金銭管理について施設マニュアルを設け、安心安全な管理体制の上でお金の使用ができるよう援助している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様には居室内に携帯電話や住所録を持っていただき、自身の希望に沿って連絡を取り、必要な際は援助を行う体制をとっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間・個人の個室共に、衛生面に注意しつつ環境整備を行い、利用者様ご自身の折り紙、塗り絵など飾り、季節感と生活感を感じるように取り組むようにしている	各フロアには特色があり、2階には利用者と職員共作のハート飾り・もみじ・八重桜風ツリーがあり、3階には節分・ひな祭り・夏祭りの写真や習字・塗り絵の作品があり、談話室には10人程度が座れるウッドベンチがある。コロナ禍の中で、朝から夜まで天井窓を開け、必要な箇所は消毒液で拭き、掃除を徹底し、空気清浄機を今年新たに設置して、感染防止に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の中に歓談スペースやテレビスペース等、食事の席以外にも空間をつくることで、ひとりひとりに合った生活空間をつくることに努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人好みの家具、好きな色のシーツを使用して頂き、又普段ご自分の折り紙・塗り絵の作品など壁に飾り、気持ちよく過ごして頂くのが努める	2階の居室入口には色々な手作りの飾りを、3階にはちぎり絵を貼って分かり易くしている。居室には、エアコン・ベッド・洗面台・カーテン・換気扇を設置し、利用者はテレビ・タンス・衣装ケース・椅子・仏壇などを思い思いに持ち込んで、居心地良く過ごせる空間となっている。日中は窓を開け、終日換気扇を付けて清浄を保っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は安心安全に配慮し管理しつつ、自立した生活が送れる空間をつくれるよう努めている		